

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区亀戸4-13-18
施設名	アンジェリカ亀戸保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

名画から表現する方法を学ぶ（まねぶ）アート活動

〈テーマの設定理由〉

当園では「非認知能力の成長」を重視する保育方針のもと、自己選択活動の環境を設定し、保育の充実を図っています。その活動をさらに推進するため、非認知能力の成長に直結する「アート表現活動」を実施したいと考えました。子ども一人ひとりが自分自身の個性を安心して発揮できる子ども主体の環境において、子どもの活動が大人によって過度に制約されない「自由」が保障されていることは非常に重要な要素であると考えています。子どもたちが主体的に取り組むことができる表現活動を通じて、保育者と子どもたちが共に、保育環境における「子どもの主体性」と「自由」について考えることは、子どもたちの「非認知能力の成長」にとって有効であると考えました。

2 活動スケジュール

5月 3原色アートワーク
6月 葛飾北斎「赤富士」ワーク
7月 ポスターワーク
8月 光の透かし絵「カレー」「宇宙」
9月 ゴッホ「ひまわり」
10月 ハロウィンランタン
11月 和紙で描く「大根」
12月 クリスマスバッグ
1月 千支ワーク
2月 バレンタイン
3月 （5歳児）マグリット「大家族」、（4歳児）ネガポジ桜

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

キャンバス、画材、新聞紙

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

「子どもたちの感性を自由に発揮させながら、表現の方法を学び、自己肯定感を育む」ことをテーマに、「表現活動を通して子どもたちが自己肯定感を育む場」を設定します。非認知能力の成長のために重要な要素の一つは、人的環境の多様性です。子ども向けの表現活動を日ごろから実施している美術講師にかかわっていただき、名画から表現の方法を学び（模倣をして）、子どもたちの「できた!」という達成感を感じられる機会をつくります。月2回の活動でひとつの作品を完成させます。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

様々な作品に触れあったことにより、作品から全体の色や雰囲気を感知取り、空間の広がりを感じている様子が伺えた。海と空がグラデーションに見えるように色をつけると「夕方みたい」という言葉が聞かれ作品の色合い、雰囲気を感知取っている。鳥を描く際、「鳥の中に空が入っている」と子ども達は、作品から自分なりのイメージを広げ描いている事に気付く。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

先の尖ったものを使う場面もあり始めは不安に思ったが、実際に取り組んでみると一人ひとりがとても集中して行っており怪我もなく終えることができた。こういった気持ちが保育者の観点から子どもの可能性を狭めることにつながるかもしれないと感じた。子どもの「やってみたい」に沿えるよう安全に気を付けながら挑戦できる環境作りを改めて考える機会になった。